

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	三菱電機株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
工場等の名称	名古屋製作所
工場等の所在地	名古屋市東区矢田南5丁目1番14号
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	電気機械器具製造業*F A関連機器の製造（工場の自動化設備）
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年6月27日 ～ 令和6年9月25日		
公表方法	☐	掲示 閲覧	（場所）
	☐	ホームページ	（HPアドレス）
	☐	冊子	（冊子名・ 入手方法）
	☒	その他	（その他詳細） 公開URL、公表、公開状況等を関係者に共有 名古屋製作所 生産システム課課長 減炭推進課課長 担当 内定掲載番号：362-712-2233
公表に係る問合せ先	052-712-2233		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

環境基本理念

三菱電機グループ環境方針のもと、名古屋地区は、世界各国に先進的な FA 製品・メカトロニクス製品・生産システムの提供を通じて、環境問題や資源・エネルギー問題の解決に取り組み、「持続可能性」と「安心・安全・快適性」が両立する豊かな社会の実現に貢献します。

環境行動指針

当地区は、1924年の創業開始以来、モータ、電磁開閉器、トランス、インバータ、ACサーボ、NC、シーケンサ、表示器、放電・レーザ加工機及びロボット等の機器・装置の設計・製造、および一歩先のものづくりを指向するソリューション提案を行っています。

私たちは、環境改善への取り組みを事業活動の最重要課題の一つとして位置づけ、「たゆまぬ技術革新と限らない創造力により、活方とゆとりある社会の実現に貢献します」という企業理念の下、次に掲げる活動を通じて進化した統合ソリューションを提供する「循環型 デジタル・エンジニアリング企業」へ変革し、多様化する社会課題の解決に貢献します。

1. FA-IT 統合ソリューション「e-Factory」により、計画、製造、リサイクルに至るすべての製造ライフサイクルをつなぐ「デジタルマニファクチャリング」を実現し、製造ライフサイクル全体の最適化により社会全体の生産性向上に貢献します。

2. いつまでも持続可能な地球環境を実現すべく、バリューチェーン全体を通じた温室効果ガスの排出抑制に取り組めます。

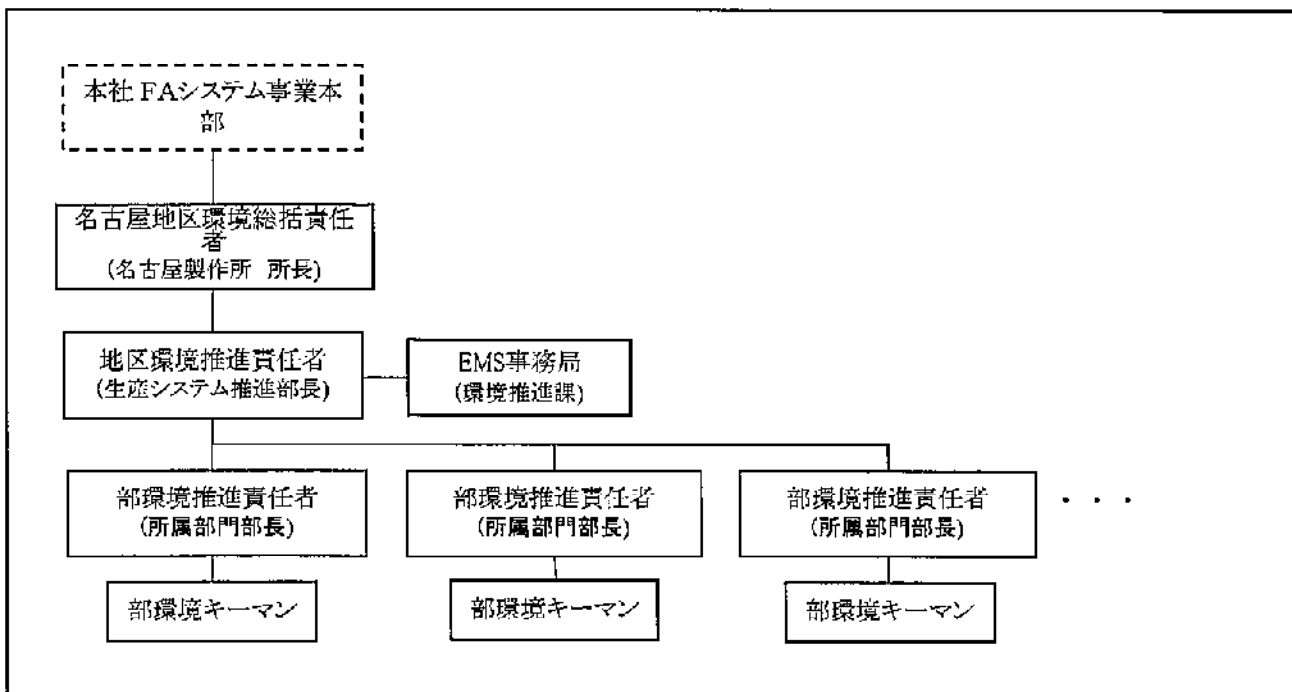
3. 「小型・軽量」「高性能」で「省資源」「省エネルギー」「リサイクル」に配慮した製品やソリューションを社会へ提供するとともに、廃棄物の再資源化、使用済製品のリニューアル等の活動を通じて、サーキュラーエコノミーの実現を目指します。

4. 法、条例、協定及び当地区が同意するその他の要求事項を遵守することは勿論、常にコンプライアンス・モットー「Always Act with Integrity」（いかなるときも「誠実さ」を貫く）を意識して事業活動に取り組めます。

5. 「自然と触れ合う活動」を通じて環境マインドを育成し、社員や家族、地域社会と共に社会貢献の輪を広げていきます。

6. 環境への取り組み状況を社会に開示し、自治体や地域社会とのコミュニケーションを進めます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		344	t-CO ₂
(温室①を酸効除炭ガス換算)	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		344	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	29,757	t-CO ₂	31,542	t-CO ₂	698	t-CO ₂	344	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			▲ 6.0	%	97.7	%	98.8	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

計画策定時、生産高を成長率3%/年と仮定。令和5年度の実績は予想よりも下振れ。R4年度に引き続き、生産に関わる電力及び都市ガスはCO2フリーのものを使用しており、R3年と比べ大幅にCO2排出量を削減することができている。
また、引き続き省エネ活動（例：ユーティリティの更新/運用改善、生産ライン改善等）にも取り組んでおり、1003t-CO2/年（相当）のエネルギー使用量を削減することができた。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
令和 4 年 4 月	CO2フリー電力の導入	所内の電力の内、生産に関わる電力をCO2フリー電力へ100%切替
令和 4 年10月	CO2フリーLNGの導入	2022年10月より、所内の生産に関わるLNGをCO2フリーLNGへ100%切替（2022年4月～9月は通常のLNG）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・社内環境マネジメントシステムによる継続的な改善の推進 ・従業員への環境教育の継続 ・廃棄物の排出抑制 廃棄物の分別及び再資源化委託
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・省エネルギー活動の実践 環境保全の日前後において月 1 回（エアコン稼動時は月 2 回）の金曜日の省エネパトロールの実施
